

療育研修会実施状況

大阪支部

参加数 53名

テーマ
及び講師

- ◆口腔ケアの必要性について◆日常生活の中での安全な口腔ケアの実際と実技
大阪大学歯学部 歯科医師 濱中 里
歯科衛生士 介護支援専門員 小田 美也子
- ◆神経筋疾患患者への口腔ケア ◆在宅での口腔ケアの実際
刀根山病院 副看護師長 村尾 めぐみ
社会福祉法人 管理者 福本 文子

実施場所 (独)国立病院機構 刀根山病院会議室



実施を終えて

ともすれば、軽く見がちで形だけの口腔ケアを行っているのが現実です。

今回の研修会で歯痛だけでなく、口腔内細菌が関連している疾患（合併症）・摂食・嚥下障害の訓練等の面からもいかに口腔ケアが必要か良くわかりました。

専門家の講義の後、いろいろな歯ブラシ、歯磨き粉、うがい液、舌ブラシ、スポンジ類、咬まれないための指サック等があることをはじめて知りました。

さらに、実技演習に充分の時間をとっていただき非常に参考になりました。

この研修の結果を今後の患者の介助のみならず、家族全員に役立てたいと思います。

療育研究会 大阪支部

テーマ 口腔ケアの必要性について 講師 歯科医師 濱中 里

1 口腔ケアとは？ 口の中をきれいにすること・・・??

目的は口腔衛生管理と口腔機能の維持増進

2 口腔を観察しよう

口腔内の各部名称・歯科治療した口腔・喪失等歯の治療をしていない口腔

3 プラーク 天然歯の歯面、あるいは口腔内に装着した人工物の表面に付

着形成される細菌及びその産生物の塊

口腔内には数千億の細菌が生息・種類は 300 種以上

4 プラークはどこに 下顎前歯部舌側・下顎前歯部舌側に多い

5 口腔ケアの目的

(1)う蝕の予防 (2)歯周病の予防 (3)口腔疾患の予防 (4)口臭の予防

(5)全身的な感染症の予防 (6)誤嚥性肺炎の予防 (7)摂食・嚥下訓練

・構音訓練の一助 (8)唾液分泌促進

6 唾液の役割

・消化作用・潤滑作用・自浄作用・円滑作用・抗菌作用・緩衝作用

・凝集、溶解作用・神経成長作用・上皮成長因子

テーマ 日常生活の中での安全な口腔ケア実際と実技

講師 歯科衛生士 小田美也子

1 摂食・嚥下障害の進行により下記のリスクが高くなる

・誤嚥性肺炎・低栄養・脱水・会話に支障・情緒や心理的に不安（意欲の喪失）・認知症の進行

2 口腔清掃

・口腔の管理・義歯の清掃、取扱、管理・唾液の流失促進・口腔（大脳、意欲）刺激

3 口腔機能訓練の実際（介護者の軽度な要介護者には強い動機付けで理解し、間接訓練の継続を支援する。）

4 摂食・嚥下障害者への対応

(1) 摂食姿勢 (2) 食事環境の整備（食事に集中） (3) 間接訓練
口体操、嚥下体操、歩行、立位、座位等) (4) 直接訓練

4 嚥下障害の診断と指導

専門医の診断と指導、

・スクリーニングテスト・水飲みテスト・反復唾液嚥下検査・フー
ドテストなど

専門的検査

・嚥下造影、内視鏡検査など

指導（支援）には、生活環境も含めた幅広いアセスメントと、適切な口腔ケアプランのプロセスに加え、モニタリングと要介護者を中心にしたケアチームで対応が効果を左右する。

テーマ 神経・筋疾患患者への口腔ケア 講師 看護師 村尾 めぐみ

1 口腔ケアの実際（筋ジス病棟の場合）

・実際の入院中の筋ジス患者をモデルとした口腔ケアの実技

2 試用している歯ブラシ等口腔ケアグッズのいろいろ

テーマ 在宅での口腔ケアの実際

講師 社会福祉法人豊中市福祉協議会在宅介護課

管理者兼サービス提供者 福本文子

1 ヘルパーとしての経験からの口腔ケアの苦労話

① 在宅患者の場合実体験

② 老人施設の場合実体験

療育研修会実施状況

大阪支部

参加数 68名

テーマ ◆就労は夢実現へ大きな希望 ◆就労支援で一人一人が輝く教育を
刀根山支援学校PTA会長 刀根山支援学校講師
講師 森 恵子 鈴木 光義

実施場所 刀根山支援学校



実施を終えて

今回の療育研修会のテーマは就労支援センター開設の目的と今後の方針でした。

森 PTA 会長は自分の子供の経験や将来の夢を話され共感を得ました。やはり子供の将来を考えると働く喜びを与えることが大切であると改めて感じました。

刀根山支援学校の鈴木先生は、就労支援センターの設立の経過、目的、今後の夢をお話されました。在宅患者であってもパソコンのインターネットで仕事ができるようになっていくことは素晴らしいことだと思いました。出来れば将来自分の子供も参加できるようにしたいと思うと共に陰ながら応援したいと思いました。

療育研修会 大阪支部

テーマ 就労は夢実現への大きな希望

講師 大阪府立刀根山支援学校歯科 PTA 会長 森 恵子

- 1 地元校や肢体不自由の支援学校でなく、刀根山支援学校に入れた理由
 - ① 筋ジスは進行性の病気のため、病院に隣接し、障害の変化や痰の吸引や呼吸器の導入などに対応した医療管理ができていること。
 - ② 同じ病気の仲間と一緒に生活や学習することによって息子も病気のことを受け入れやすいと思ったこと。
 - ③ 高校入学前に刀根山支援学校を見学し、息子が刀根山支援学校に入学を強く希望したこと。
- 2 高校生活について
 - ① 今、高校2年生ですが、2人のクラス仲間と毎日仲良く楽しく生活している。
 - ② 学校を離れるとクラスメートとの交流が難しいが、携帯メールの操作に目覚め、3人の友情がさらに深まっている。
 - ③ 今までと同様、これからも病状が進むにつれて、いろいろな場面で誰かに手を借りなければならなくなっていて、いろいろなことを手助けしてもらおうという生活になる。

中学までは何事にも受身の生活であったが、高校に進学し、自分で考えよう、自分で判断しようとする気持ちが出来てきたのと、自分でしっかり体調管理をする習慣が身についてきた。
 - ④ 刀根山支援学校では、パソコンがいつでも使える環境にあり、操作についても本人の動きに応じて、ペンタブレットを使ったり、ゲームのコントローラーを使ったりと工夫されており、とても使い易い環境で学習している。息子がパソコンを使いこなしている姿には正直驚いている。家でも、パソコンに向かい自分でペンタブレットの設定をして平然と使っている姿を見て、涙が出そうなくらい感動した。
- 3 高校卒業後の心配事項
 - ① あと1年余りで高校卒業後のことを考えるととても心配です。

ずっと家の中で生活することは、今まで刀根山支援学校で身につけた多くのことが無駄になってしまうように思われる。

刀根山支援学校で培ったものを行かせる場があれば良いなと思う。
 - ② 就労支援センター「かがやきネット」がそんな場所になって欲しいし、一保護者としてできることがあれば支援していきたい。それが、大きな夢と希望となって生きる力の糧となっていくように思う。
 - ③ 今後の希望
刀根山支援学校では昨年3月期から看護師を配置し医療的ケアが行われるようになった。それまで、昼食後刀根山病院の外来で痰吸引をしていましたが、学校の看護師がするようになり助かっている。

就労支援センター「かがやきネット」にも患者に対する医療面のケアが必要だし、それが備わるとより多くの患者が安心して通い、働けるようになると思う。今後の課題として検討する必要がある。

療育研修会 大阪支部

テーマ 就労支援で一人一人が輝く未来を

講師 大阪府立刀根山支援学教員 鈴木光義

- 1 進路元年の取り組みの紹介
- 2 卒業生の進路と就労
K君の事例・T君の事例紹介
- 3 保護者の願い アンケート調査から
- 4 就労支援センターの設立に向けて
刀根山病院が就労支援モデル病院として指定（全国3病院）
学 校・・・卒業後の社会参加・自己実現へ向けての基礎を作る場
筋ジス協会・・・子育て支援と就労支援
病 院・・・医療と看護・患者（入院・在宅）のQOLの向上
- 5 就労支援センターの役割
人材の収集（個々の能力を把握する）
企業（団体）に出来る仕事内容を伝える・・・営業活動
企業（団体）から仕事の依頼を受ける
登録されている人材に仕事を振り分ける
コーディネーターするところが就労支援センター
- 6 就労支援センターの設立
「かがやきネット」の誕生
・日本筋ジス協会から予算提示
・病院、学校・協会の連携で就労支援センター設立（H21,3,16）
- 7 就労支援センター「かがやきネット」概要
目 的 筋ジストロフィー患者自己実現と社会参加を目指した就労支援
管理組織 日本筋ジストロフィー協会大阪支部
国立病院機構刀根山病院
大阪府立刀根山支援学校
- 8 組 織
センター長 日本筋ジストロフィー協会大阪支部長
副センター長 日本筋ジストロフィー協会大阪副支部長
担 当 者 大阪府立刀根山支援学校教員
会 計 日本筋ジストロフィー協会大阪支部役員
会計監査 国立病院機構刀根山病院療育指導室長
大阪府立刀根山支援学校 PTA 会長
サポート体制 大阪府立刀根山支援学校本校教育部進路指導部教員
協力団体 小規模作業所「夢とぴあ」「クローバー」
- 9 仕事内容 テープ起こし・カレンダー・ポスター・ポストカード（年賀状その他）・
名前シール・名刺・DVD編集・その他パソコンを利用した作業
- 10 仕事の実績 ポスター3件・DVD編集・カード作成
- 11 今後の課題

- (1) 取り組みと実績を地域にどう知らせていくか。
広報活動（人材確保）
- (2) 就労支援組織の早期確立
筋ジス協会と病院と学校が新しい発想で連携
- (3) 保護者の積極性をどう引き出すか
勇気を与え・子どもと一緒に前向きに
- (4) あきらめさせない教育
次の手・これでもか・前へ前へ決してあきらめない